

令和4年度 学校経営の基本的な考え方

拝島第二小学校 校長 小瀬 和彦

I 問題の所在

これからの社会は、Society5を迎え、I to T(Internet of Things)で全ての人とモノがつながり、人口知能(AI)の飛躍的な進化とともに、将来の変化を予測することが困難な時代に直面する。また世界では、温暖化、飢餓、紛争、格差、感染症といった国境を超えた課題が山積しています。このような社会的背景を踏まえ、これからの学校教育には、「日本人としてのアイデンティティをもちながら、異なる言語・文化・価値を乗り越えて関係を構築するためのコミュニケーション能力、課題に対し協働して問題解決を図っていく能力、共によりよく生きようとし、社会貢献などの意識をもった人間」の育成が求められます。

拝島第二小学校では、上記のような社会的背景及び地域、児童の実態を踏まえ、下記の点から、学習指導要領に基づいた教育を展開していきます。

記

本校では、昭島市に愛着をもち、かかわることを通して、「自らの人生を自らの力で切り拓き、持続可能な社会の創造を担う人間の育成～グローバルに考え、ローカルに実践する～」を目指します。

学習指導要領の確実な実施を図るため、全教職員の力を結集し、「ザ・チーム拝二小（子供の成長を教育活動のど真ん中におく！）」で教育活動の充実を図り、保護者・地域・市民の信頼に応える学校創りを推進します。

One for all. All for one ONE TEAM. チーム拝二小 学校は失敗するところ！ 教室は間違えるところ！ 子供の成長を教育活動のど真ん中におく！ 授業は子供が主人公！ 誰一人取り残さない！

II 学校の教育目標

社会に開かれた教育課程の基、カリキュラム・マネジメントを発揮し、チーム学校（拝二小「子供の成長を教育活動のど真ん中におく！」）としての組織力を発揮し、教育目標を達成します。

- ◎ よく考える子（知）
自ら学び考え・判断し、協働して問題解決を図る子を育てる。
- 心ゆたかな子（情）
自分のよさを見つめ、他者を尊重し、共によりよく生きる子を育てる。
- 元気な子（意・体）
自らすすんで挑戦し、最後までやり遂げる子を育てる。
自らすすんで心と体をきたえ、たくましく生きる子を育てる。

Ⅲ 目指す学校像

～未来志向の学校を創造する～

『子供の成長』を教育活動のど真ん中におき、

チーム拝二小「One for all. All for one.」で、

わくわくドキドキする学校を創造していく！

- 1 児童に、確かな学力と自己実現に向かう力を育てる学校
- 2 児童の主体性を育み、自律・自立の精神を養う学校（ワクワク・ドキドキする学校）
- 3 教職員が組織一丸となって教育活動を創り上げる学校（チーム拝二小・ONE）
- 4 児童一人一人が大切にされ、安全で安心な生活を保障する学校
- 5 保護者及び地域から信頼され、地域と共に歩む学校

Ⅳ 学年・専科経営にあたって

～教育目標を達成するために～学校経営に学年・専科チームとして参画する！

- 1 「Ⅰ」～「Ⅲ」を踏まえ、学年・専科として「大切にしたいこと！」「育てたい児童像・授業像！」を明確にする。
- 2 学年・専科主任・副主任は、意図的・計画的に学年・専科チームとして学年・専科会を設定し、学び合いの場とする。（SC等関係者にも声をかけること！）
 - 児童の成長に関すること（学習指導・生き方指導）
 - 創造的授業（主体的・対話的で深い学び）に関すること
 - 学校経営・学年・専科経営・学級経営に関すること
- 3 管理職・学年メンバー・専科等との相互の「報告」「連絡」「相談」の徹底を図る。
- 4 授業は、伝統的な知識注入型授業から脱却し、各教科等の単元導入前に、必ず、学年会で指導内容及び指導方法の共通理解を図り、「拝二小授業カスタンダード 20Ver.2」を基盤に、より高いレベルを目指す。
- 5 各教科等の指導計画について、カリキュラム・マネジメント（指導計画のPDCAサイクル化）を実施する。
- 6 教室等は、ユニバーサルデザイン（障害の有無、年齢、性別、人種等にかかわらず多様な人々が利用しやすいよう教室等の環境をデザインする考え方）とする。

Ⅶ 参考

Learning Pyramid
平均学習定着率

